

# JIS Z 2801 (抗菌加工製品-抗菌性試験方法・抗菌効果)の 改正についてのお知らせ

先般、JIS Z 2801 (抗菌加工製品-抗菌性試験方法・抗菌効果)が改正され、それに伴い2011年5月9日(月)から開始分のご依頼より改正後のJIS Z 2801:2010版(以下、新JISとする)での試験に切り替えを致しますのでお知らせいたします。

新JISでの実施にあたり、抗菌活性値を求める計算式が変更されております。変更内容につきましては下記の表をご参考ください。

	旧JIS JIS Z 2801:2006	新JIS JIS Z 2801:2010
生菌数の求め方	$N = C \times D \times V$ <p>N : 生菌数(1試験片あたり) C : 集落数 ※コロニー数 D : 希釈倍率 V : 洗い出しに用いたSCDLP培地の液量 (mL)</p>	$N = \frac{C \times D \times V}{A}$ <p>N : 生菌数(試験片1cm<sup>2</sup>あたり) C : 集落数 ※コロニー数 D : 希釈倍率 V : 洗い出しに用いたSCDLP培地の液量 (mL) A : 被覆フィルムの面積 (cm<sup>2</sup>)</p>
抗菌活性値の求め方	$R = \log(B/C)$ <p>R : 抗菌活性値 B : 無加工試験片の24時間後の生菌数の 平均値 C : 抗菌加工試験片の24時間後の 生菌数の平均値</p>	$R = U_t - A_t$ <p>R : 抗菌活性値 U<sub>t</sub> : 無加工試験片の24時間後の 生菌数の対数値の平均値 A<sub>t</sub> : 抗菌加工試験片の24時間後の 生菌数の対数値の平均値</p>

上記の計算式は、JIS Z 2801をISO 22196(プラスチック-プラスチック表面の抗菌性の測定)に整合させる目的で変更されております。

上記の内容についてご不明な点等ございましたら、近畿事業所微生物試験室にお問い合わせくださいますよう、お願い申し上げます。

近畿事業所  
抗菌試験担当:川畑 孝司

TEL:06-4707-0030 / FAX:06-4704-0040